

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

令和6年度 第2回SAH非認知能力アンケート結果速報（2024.11.27配信、2024.12.20回答〆切）

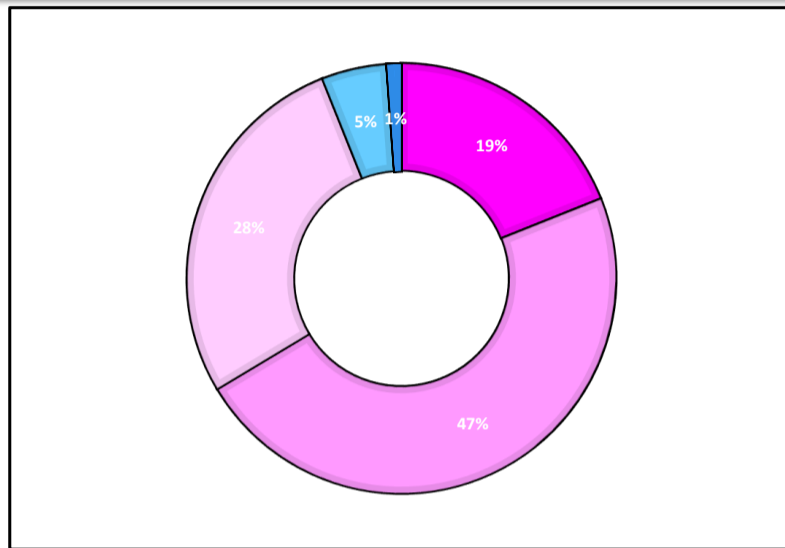
★校長より★ SAHが始まってもうすぐ2年が経過しようとしています。2年前は生徒の皆さんも、我々職員も「非認知能力っていったい何だろう」という状態でしたが、今回のアンケートを見てみるとその理解や意識がかなり深まってきていると感じます。注目したいのは「非認知能力」やその有用性について自分の言葉で言語化できるということです。言語化ができるということは、非認知能力についてある程度体系的に理解ができ、意識し、その育成に自ら取り組んでいるということだと思います。以前、私は生徒に「強くならなければいけない」と盛んに訴えていた時期がありました。もちろんそれは「困難を乗り越える力を身につけて欲しい」という意味です。ただ、「強くなれ」と言っている私自身としても、腹落ちしないところがありました。今思えば、非認知能力やその有用性、非認知能力の中の一つとしての「困難に負けない力」と体系的に言語化していけばもっとスッキリと伝わったのかも知れません。もし、「苦手とする力」がある人がいたら、まずは整理し、自分の言葉で言語化するところから始めてみてください。 校長 原 拓史

<参考>設問1 あなたの学年を教えてください。

<参考>設問2 あなたのクラスを教えてください。

設問3 あなたは『非認知能力』とはどういった能力なのか、自分なりに説明できますか？

自分なりにできる（5段階の5）	101	18.9%
まあまあできる（5段階の4）	253	47.5%
少しできる（5段階の3）	147	27.6%
あまりできない（5段階の2）	26	4.9%
できない（5段階の1）	6	1.1%
533		

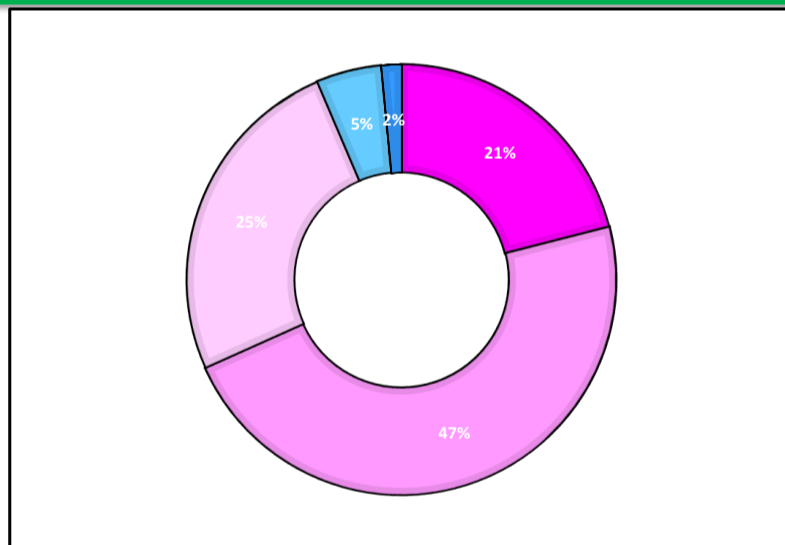


	今年度12月	今年度4月
全学年平均	3.78	3.19
1年	3.79	2.83
2年	3.72	3.42
3年	3.85	3.35
*全学年	533人	580人
*1年	197人	197人
*2年	193人	197人
*3年	143人	186人

★考察★ これまでに2度も非認知能力の研究者である中山先生を迎え、非認知能力とはなにかという基礎を教えてください、それが定着している様子が出ています。『言語化できる』と答えた生徒が『500人以上もいる』ということは大変喜ばしい結果である。右の評定平均値も全学年大幅に向上し、特に1年生の成長率が非常に高い。

設問4 あなたは『認知能力』と同様に、『非認知能力』がなぜ必要とされているのか、自分なりに説明できますか？

自分なりにできる（5段階の5）	112	21.0%
まあまあできる（5段階の4）	252	47.3%
少しできる（5段階の3）	135	25.3%
あまりできない（5段階の2）	26	4.9%
できない（5段階の1）	8	1.5%
533		

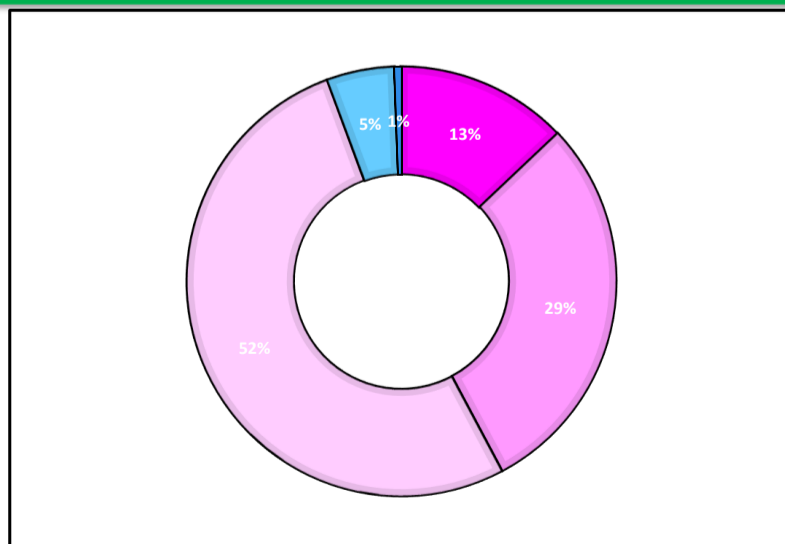


	今年度12月	今年度4月
全学年平均	3.81	3.31
1年	3.82	2.97
2年	3.75	3.45
3年	3.90	3.52
*全学年	533人	580人
*1年	197人	197人
*2年	193人	197人
*3年	143人	186人

★考察★ 『非認知能力が必要な理由』を理解している生徒が『約500人もいる』ということが素晴らしい。設問3と同様に1年生の成長率は非常に高く、なかでも3年生の評価が『3.90』と非常に向上している。まさに受験で『非認知能力』の必要性を実感しているからでしょう。

設問5 SAHの目的である『自ら考え、判断し、行動できる力』について、現時点でのあなたの自己評価をしてください。

かなり高い方だと思う（5段階の5）	69	12.9%
高い方だと思う（5段階の4）	156	29.3%
平均レベルだと思う（5段階の3）	278	52.2%
やや低い方だと思う（5段階の2）	27	5.1%
低い方だと思う（5段階の1）	3	0.6%
533		



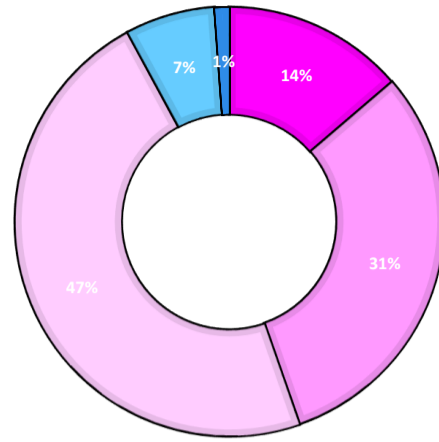
	今年度12月	今年度4月
全学年平均	3.49	3.23
1年	3.37	3.13
2年	3.47	3.25
3年	3.68	3.32
*全学年	533人	580人
*1年	197人	197人
*2年	193人	197人
*3年	143人	186人

★考察★ 『自ら考え、判断し、行動できる力』を意識し、『平均以上である』と答えた生徒が『500人以上もいる』ということが素晴らしい。右の学年別では1年生の評価が、2、3年生に比べるとあまり伸びてはいないが、2、3年生はそれだけ経験としての実感があるためでしょう。

設問 6 本校のグランドデザインに掲げられている次の力について、現時点でのあなたの自己評価をしてください。①目標を持って主体的に取り組める力

かなり高い方だと思う（5段階の5）	73	13.7%
高い方だと思う（5段階の4）	165	31.0%
平均レベルだと思う（5段階の3）	253	47.5%
やや低い方だと思う（5段階の2）	36	6.8%
低い方だと思う（5段階の1）	6	1.1%
	533	

★考察★ 『目標をもって主体的に取り組める力』も非常に高い。設問5の結果より『かなり高い』『高い』と評価している生徒が増えていることにも着目したい。『進路・学習・部活動』などの『具体的な目標』を設定し、それに向かって努力している生徒の割合が増えていると考える。

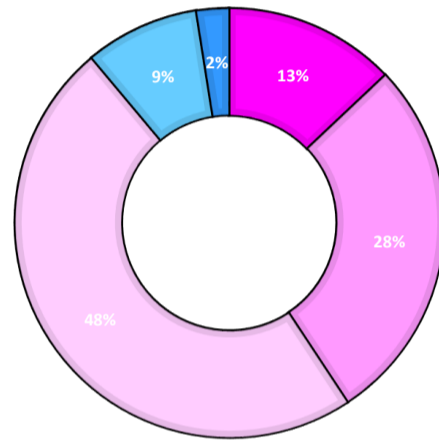


	今年度12月	今年度4月
全学年平均	3.49	3.29
1年	3.36	3.26
2年	3.50	3.27
3年	3.67	3.36
*全学年	533人	580人
*1年	197人	197人
*2年	193人	197人
*3年	143人	186人

設問 7 本校のグランドデザインに掲げられている次の力について、現時点でのあなたの自己評価をしてください。②学びに向かう力（主体的に学ぶ力）

かなり高い方だと思う（5段階の5）	69	12.9%
高い方だと思う（5段階の4）	148	27.8%
平均レベルだと思う（5段階の3）	257	48.2%
やや低い方だと思う（5段階の2）	46	8.6%
低い方だと思う（5段階の1）	13	2.4%
	533	

★考察★ 『学びに向かう力』では1年生が大幅にダウンしているのに対し、3年生は大幅にアップしている点が対照的。2年生も『3年生0学期』と言われる時期に入っているため上昇している。すべての学年にとって3学期は重要な時期であるため、さらに向上を目指しましょう！

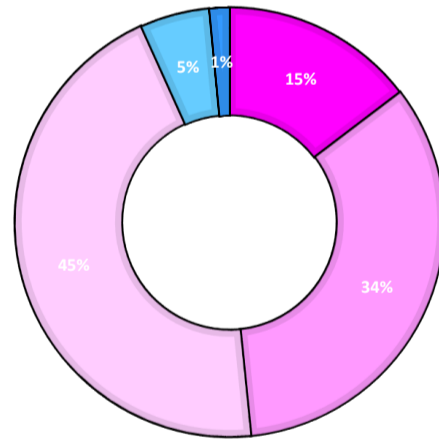


	今年度12月	今年度4月
全学年平均	3.40	3.23
1年	3.27	3.45
2年	3.37	3.06
3年	3.62	3.19
*全学年	533人	580人
*1年	197人	197人
*2年	193人	197人
*3年	143人	186人

設問 8 本校のグランドデザインに掲げられている次の力について、現時点でのあなたの自己評価をしてください。③困難を乗り越える力

かなり高い方だと思う（5段階の5）	78	14.6%
高い方だと思う（5段階の4）	180	33.8%
平均レベルだと思う（5段階の3）	239	44.8%
やや低い方だと思う（5段階の2）	28	5.3%
低い方だと思う（5段階の1）	8	1.5%
	533	

★考察★ 『困難を乗り越える力』では『かなり高い』『高い』と答えた生徒のみで『48.4%』にもなる。『進路・学習・部活動・友人関係』のどれでも『困難』な場面が出てくるわけだが、前南生が立ち向かい、学年に比例し、乗り越えている様子が見え頼もしい結果である。

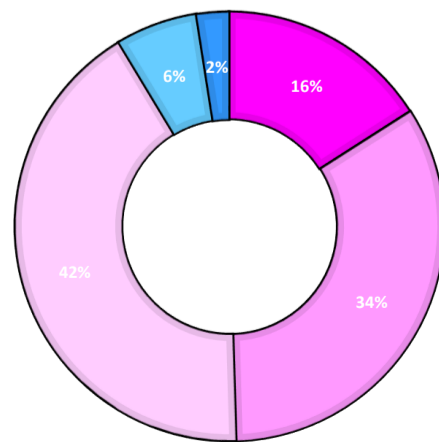


	今年度12月	今年度4月
全学年平均	3.55	3.48
1年	3.44	3.51
2年	3.55	3.44
3年	3.70	3.49
*全学年	533人	580人
*1年	197人	197人
*2年	193人	197人
*3年	143人	186人

設問 9 本校のグランドデザインに掲げられている次の力について、現時点でのあなたの自己評価をしてください。④粘り強く取り組む力

かなり高い方だと思う（5段階の5）	85	15.9%
高い方だと思う（5段階の4）	179	33.6%
平均レベルだと思う（5段階の3）	223	41.8%
やや低い方だと思う（5段階の2）	33	6.2%
低い方だと思う（5段階の1）	13	2.4%
	533	

★考察★ 『粘り強く取り組む力』では『かなり高い』『高い』と答えた生徒のみで『49.5%』にもなる。すぐに結果は出なくとも『ねばる』ことができていると自己評価している前南生がたくさんいる証である。3年生の数値はさすがであるが、学年差があまりない点が好ましい。



	今年度12月	今年度4月
全学年平均	3.55	3.42
1年	3.46	3.47
2年	3.49	3.36
3年	3.74	3.41
*全学年	533人	580人
*1年	197人	197人
*2年	193人	197人
*3年	143人	186人

設問 10 次の非認知能力等のなかで、あなたの能力が『平均値よりも高い』と自己評価できるものをすべて選択してください（複数選択可能）。

平均より高い（人）	カテゴリ	非認知能力	今年度4月ランク
294	他者とつながる力	⑤協働力（周囲の人たちと協力的に業務を進める力）	3↑
293	他者とつながる力	④親和力（円滑な人間関係を築く力）	2
286	他者とつながる力	⑯共感力（他者の考えや意見、喜怒哀楽といった感情に寄り添うことができる力）	1↓
185	課題に向かう力	①課題発見力（問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う力）	9↑
184	自分と向き合う力	⑦感情制御力（自分の気持ちの揺れをコントロールする力）	4↓
156	自分を高める力	⑧自信創出力・意欲・向上心（ポジティブな考え方やモチベーションを向上・維持する力）	6
155	他者とつながる力	⑬交渉力（相手と話し合い、合意点を探る力）	7
149	自分と向き合う力	⑫柔軟性（変化に適応する力）	8
142	課題に向かう力	②計画立案力（問題解決のための効果的な計画を立てる力）	14↑
136	他者とつながる力	⑱ユーモア力（言葉等によって、相手やその場を和ませたり、その場の空気を温かくする力）	5↓
131	自分を高める力	⑯自己肯定感（ありのままの自分を肯定する感覚）	12↑
130	自分を高める力	⑮ストレスコントロール・楽観性・忍耐力・鈍感力（気に病まず、ものごとを進める力）	13↑
127	自分と向き合う力	⑩レジリエンス（失敗や困難から立ち直る力）	10↓
125	課題に向かう力	③実践力・実行力・GRIT（計画に沿った実践・行動する力・やり抜く力）	15↑
125	課題に向かう力	⑪創造力・想像力（あたらしいものを考えたり、作り出す力）	11↓
102	課題に向かう力	⑳労力対効果・効率実践力（コスパ・タイパなどを含め、効率よくものごとを推し進める力）	17↑
99	課題に向かう力	⑰判断力（危機的状況や複数の選択肢が存在する状況で、効果的な意思決定を下す力）	16↓
94	自分と向き合う力	⑨行動持続力（よい行動を習慣化させる力）	20↑
87	他者とつながる力	⑥統率力（目標に向かって組織を動かす力）	18↓
69	自分を高める力	⑭発信力・発表力（自分の意見や考えをわかりやすく発表する力）	19↓



↑カテゴリ分けの参考
元岡山大学准教授 中山芳一氏による3グループ

上の3つに本校オリジナルの分類『課題に向かう力』を加え、4つの分類別にも分析を加えた。

平均値（人）	カテゴリ別
208.5	他者とつながる力
138.5	自分と向き合う力
129.7	課題に向かう力
121.5	自分を高める力

★考察★
『課題に向かう力』のなかの『①課題発見力』『②計画立案力』は4月の調査で前南の課題としていた力であり、この2つが向上しているのは意識して取り組んだ成果である。また、前回に引き続き、右下のカテゴリ別では『他者とつながる力』が圧倒的に優れていることが読み取れる。逆に『課題に向かう力』『自分を高める力』が2回連続の下位2カテゴリとなっている。『受験』『目標』『悩み』などの『課題』に向かい、克服することで『自分を高める』ことにもつながるはず！強みはさらに伸ばし、自信をつけ、『課題』は次回に向けて強く意識し、『改善』がなされるとよいでしょう。特に『100人未満』の生徒しかあげていない『⑰判断力』『⑨行動持続力』『⑥統率力』『⑭発信力・発表力』を意識して生活していきましょう！

設問 11 次の非認知能力のなかで、あなたの能力が『平均値よりも低い』と自己評価できるものをすべて選択してください（複数選択可能）。

平均より低い（人）	カテゴリ	非認知能力	今年度4月ランク
237	課題に向かう力	②計画立案力（問題解決のための効果的な計画を立てる力）	1
212	課題に向かう力	③実践力・実行力・GRIT（計画に沿った実践・行動する力・やり抜く力）	2
184	他者とつながる力	⑥統率力（目標に向かって組織を動かす力）	3
156	課題に向かう力	①課題発見力（問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う力）	6↑
152	自分と向き合う力	⑨行動持続力（よい行動を習慣化させる力）	4↓
148	自分を高める力	⑯自己肯定感（ありのままの自分を肯定する感覚）	9↑
130	自分を高める力	⑮ストレスコントロール・楽観性・忍耐力・鈍感力（気に病まず、ものごとを進める力）	7
127	自分を高める力	⑭発信力・発表力（自分の意見や考えをわかりやすく発表する力）	8
123	他者とつながる力	⑱ユーモア力（言葉等によって、相手やその場を和ませたり、その場の空気を温かくする力）	13↑
117	自分と向き合う力	⑩レジリエンス（失敗や困難から立ち直る力）	12↑
117	課題に向かう力	⑳労力対効果・効率実践力（コスパ・タイパなどを含め、効率よくものごとを推し進める力）	14↓
114	課題に向かう力	⑪創造力・想像力（あたらしいものを考えたり、作り出す力）	10↓
112	自分と向き合う力	⑦感情制御力（自分の気持ちの揺れをコントロールする力）	11↓
106	自分を高める力	⑧自信創出力・意欲・向上心（ポジティブな考え方やモチベーションを向上・維持する力）	5↓
105	課題に向かう力	⑰判断力（危機的状況や複数の選択肢が存在する状況で、効果的な意思決定を下す力）	15
97	他者とつながる力	④親和力（円滑な人間関係を築く力）	16
81	自分と向き合う力	⑫柔軟性（変化に適応する力）	17
76	他者とつながる力	⑤協働力（周囲の人たちと協力的に業務を進める力）	19↓
76	他者とつながる力	⑬交渉力（相手と話し合い、合意点を探る力）	18↓
45	他者とつながる力	⑯共感力（他者の考えや意見、喜怒哀楽といった感情に寄り添うことができる力）	20



↑カテゴリ分けの参考
元岡山大学准教授 中山芳一氏による3グループ

上の3つに本校オリジナルの分類『課題に向かう力』を加え、4つの分類別にも分析を加えた。

平均値（人）	カテゴリ別
100.2	他者とつながる力
115.5	自分と向き合う力
127.8	自分を高める力
156.8	課題に向かう力

★考察★
『②計画立案力』『③実践力・実行力・GRIT（計画に沿った実践・行動する力・やり抜く力）』『⑥統率力（目標に向かって組織を動かす力）』は4月の調査でもっとも多くの生徒が『平均以下』と自己評価した力であり、1位～3位までまったく同じ順位である。右下の4つのカテゴリ分類では『課題に向かう力』をいちばん『平均以下』と評価している生徒が多いという結果が出ている。設問10と設問11では『正反対』に結果が出るはずなのだが、『正反対』となっていないことに面白さがあり、設問の意味がある。また、ここでは『できたか、できなかったか』ではなく、『課題』に『挑戦したか、挑戦しなかったか』『前よりよくなったか』ということでもいいわけであり、ぜひ『挑戦する』ところからはじめていただければと思います。

設問 12 あなたが自分の非認知能力を高めることができていると思う『場面』を選択してください（複数選択可能）。

	高められている (人)	非認知能力を育成する場面	今年度4月ランク
1	343	①授業	3↑
2	322	④部活動	1↓
3	281	⑥学校行事（準備期間含む）	2↓
4	161	②休み時間	4
5	122	③放課後	5
6	110	⑦自主学習中	9↑
7	106	⑤生徒会・委員会活動	7
8	94	⑩休日	6↓
9	68	⑨帰宅後	8↓
10	37	⑧塾	10

★考察★

驚くべきことに『①授業』が『④部活動』『⑥学校行事』をしのぎ1位になってしまいました。『個別最適化』の本校職員アンケートを公開したばかりですが、本校職員の『授業改善』の努力が気づいているのか、うれしい結果となりました。また、前回課題となった『⑦自主学習中』での向上が大きくランクアップしているのは、生徒の意識の現れでしょう。過去3回のアンケート結果にも出ていますが、最下位の『塾』と学校の『授業』では、なにがそんなに『異なる』のでしょうか？『塾』では『非認知能力』を育成する余地が少なく『認知能力』育成に特化しているからということでしょうか？後ほど、生徒に質問してみたいと思います。

設問 13 あなたが自分の非認知能力を高めることがあまりできていないと思う場面を選択してください（複数選択可能）。

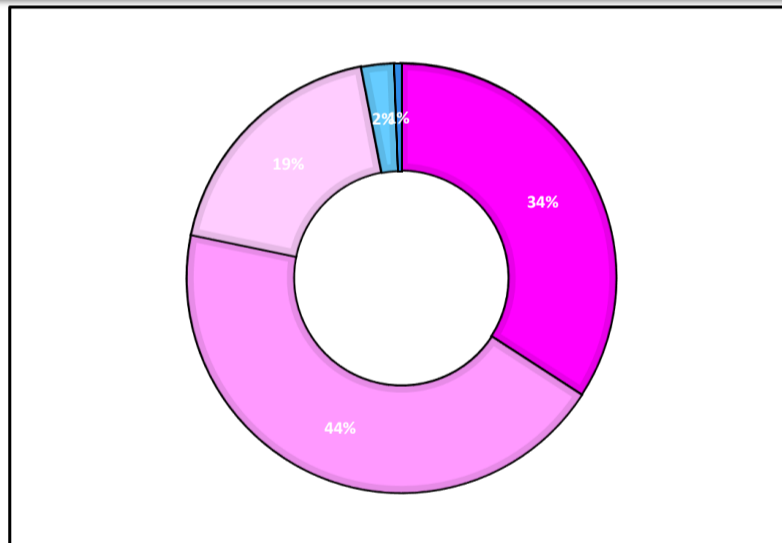
	高められていない (人)	非認知能力を育成する場面	今年度4月ランク
1	237	⑨帰宅後	1
2	202	⑩休日	3↑
3	163	②休み時間	5↑
4	155	①授業	2↓
5	125	⑦自主学習中	4↓
6	101	③放課後	8↑
7	82	⑥学校行事（準備期間含む）	9↑
8	82	⑧塾	7↑
9	77	⑤生徒会・委員会活動	6↓
10	42	④部活動	10

★考察★

3回連続、なんと1位は『⑨帰宅後』なんです！帰宅後には疲れてしまい、『寝る・休む』という生徒が多いのでしょうか。実は私も家では『休息・リフレッシュ・回復』ということに重きを置いています。しかし、そこで休息にも工夫をすれば『非認知能力』を高めることはできるはず！『①授業』『⑦自主学習中』は順位が下がりました。よいことです。引き続き、『自由度の高い時間帯』こそ、非認知能力を伸ばす意識を持ちましょう！また、次回の選択肢として『特になし』というも設定してみようと思いました。これで無理に選択する必要がなくなります。

設問 14 今後もあなたは『非認知能力』を意識し、高めていきたいと思いませんか？

強く思う（5段階の5）	182	34.1%
まあまあ思う（5段階の4）	235	44.1%
思う（5段階の3）	100	18.8%
あまり思わない（5段階の2）	13	2.4%
思わない（5段階の1）	3	0.6%
	533	



	今年度12月	今年度4月
全学年平均	4.09	4.10
1年	4.06	4.17
2年	4.13	4.10
3年	4.19	4.03
* 全学年	533人	580人
* 1年	197人	197人
* 2年	193人	197人
* 3年	143人	186人

★考察★ 『今後』についての『姿勢・意識』を聞いてみたが『182人』もが『強く思う』、『235人』が『まあまあ思う』と回答している。学年別のスコアも全学年で『4.0』を超え、今後の生徒の変容も大いに期待できる結果となっている。前南生の今後はさらに楽しみである。

★教頭より★

12月というお忙しいなか、たくさんの生徒に回答いただきありがとうございます！特に受験期まっただなかの3年生の回答は貴重であり、本当に感謝しております！また、促していただいた先生方にも感謝いたします！その甲斐あって、たいへんよい結果が出ていると思います！3年生にとっては邪魔くさい時期のアンケートでしたが、丁寧に回答していただいたことで、1、2年生のよき手本となる結果となっています！2年生の回答も「なかだるみ」ということは全くなく、『高校3年生0学期』を生きている高い意識が出ております！1年生にとっては『入学直後のフレッシュさ』は消えたようで、多少の『慣れ』は出ていますが、人間とはそういう面も持っていますのでごく自然な結果です。私ごとになりますが、『常に自分のいる場所をよい場所にしよう』とやって仕事をしています。そのためにできることはなにか、日々考え、行動するのみです！『なにか人の役に立ちたい』『少しでも自分がいる場所をよくしたい』と思い、行動する姿勢を『Agency』と呼びます！『Agency』はまだ別の人の『Agency』を生みます！そして互いに刺激し合って『Agency』の渦が起こるのです！前南ではすでにそうなっている気がします！『うまくいかない』こともたくさん経験するでしょう。しかし、そこから『這い上がる・立ち直る』ことも経験してみてください。そのうちに『大概のことはなんとかなる』と思えてくるはずです。そう思えたら『すごいこと』です！その経験を手に入れたらこの先一生やっていけます！『うまくいかないこと』は次に生かせばいいのです！『まずはなにかをやってみる』ことから始めましょう！
教頭 星野 亨

